

新春インタビュー 二年目に懸ける男が語りつくす

「問題解決型」から「政策提言型」へ

「しがらみのない分かりやすい政治」「市民感覚、民間企業感覚の政治」を標榜し、地域の活性化を第一に掲げて県議会議員となつて9か月。弱冠29歳の若き政治家の目は、明日の岐阜そして多治見を見すえ、確かな一歩を踏み出そうとしている。そして平成も20年の節目を迎えたい。若いゆえに守旧を打破し、社会を変ええる可能性にかけた有権者の思いを著き政治家はどのようにあげていくのか。当選後の足跡と今後の活動方針について聞いた。(聞き手は本紙編集人)

地域医療と公的病院との連携が課題

どうする？ 県病院の独立行政法人化

よりよい医療制度の改革とは

——当選時28歳と、若い県議会議員が誕生して8ヶ月あまりが過ぎました。まず市民生活に直結する医療制度についてお話を聞きます。県立多治見病院をはじめ、県内の公立病院の「独立行政法人化」に向けた動きがあります。一市民の

立場として医療の質の低下、診療科目の削減など大きな問題をほらんでいるように思えますが。高木 地域医療を担う公立病院において、まず県立病院は各市町村ではカバーできない高度な医療を行う役割があります。そして二次医療機関として市民病院の役割があります。問題は、民間の医療機関を含め

た各病院施設をどう有機的に連携させていくかにあると思います。私は岐阜・多治見・下呂の三つの県立病院の独立行政法人化に対しては賛成の立場です。一部では、医療の分野で採算だけを求める法人化に対して異論があることも事実ですが、現状のままでは厳しい経営環境に変化は起こらないと思います。

法人化によって、人事や給与の自由度が上がり、外部からも有能な人材が登用しやすくなることは確かです。また病院自身の自主性も高まります。しかし、医療という住民の根幹に関わる部分ですから、市民の皆さまの不安がないように進めていくのが何より大切です。

人口減少に歯止めをかけるには

——昨年12月の一般質問では、「人口減少」の問題を中心に質問をされました。高木 今後の政治活動として、中

長期的視野に立った問題とすべ解決すべき問題を分けて問い、取り組んでいくべきだと考えています。その中で「人口減少」や「環境問題」は長期的視点に立って考えなければならぬ問題です。社会保障の問題を筆頭に、消費の減少による税収不足、人材の確保の問題などはおおむね人口減少からきていると考えられます。現在の岐阜県の人口は約210万人ですが、今から30年後には150万人台に入ってくるものと見られています。中でも、65歳以上の人口が約3分の1を占めるとされるのですが、このままだと、いま問



題となっている年金問題などでの現役世代への賦課方式は必ず破綻するわけです。人口減少への具体策はありますか？高木 一般に少子化は「合計特殊出生率」で表され、その数値が2.08を下回ると少子化が進んでいるとされるのですが、その数値が昭和50年から下がり続け

多治見を変え、岐阜を変える そして日本を変革していく



るかを市民自身が考えなければならぬと思っています。「あれもやってほしい、これもやってほしい」では立ち行かなくなることは必至です。「変える」といったのはみんなの気持ちを変えようということ。そして、利権・既得権がからまない若い世代の気持ちを変えたかったのです。

今の政策は「問題解決型」。つまり起きたことに対して手を打っていくという対処療法みたいなもので、種時きを余裕がないわけです。いま思っているのは、「長い視点で見てどういう政策を打ち出していくか」ということの大切さです。

——ところで、どうして「県議会議員」だったのでしょうか？政治家としては市議会議員という選択肢もあったと思うのですが。高木 多治見市というのは、地勢の特質もあり市民の多くの目がある古屋に行ってしまうんです。しかし当然のことですが、税金を納めるのも行政サービスを受けるのも「岐阜県」です。つまり「岐阜」の中で多治見の価値を高め、どうアピールしていくかが、喫緊の課題なのです。また、4期16年もの間、多治見では県議会議員選挙が行われていなかったため、「市民に見えぬ政治」「身近な政治」を実現したいという思いも一方にはありました。そのためには県議として力を発揮させていただくのが私の道だと思ったわけです。

今こそ、「具体的数値目標」を出して新たな政策を打つべきです。数値を出すことで政策も具体化していくはずだからです。

——ところで、どうして「県議会議員」だったのでしょうか？政治家としては市議会議員という選択肢もあったと思うのですが。高木 多治見市というのは、地勢の特質もあり市民の多くの目がある古屋に行ってしまうんです。しかし当然のことですが、税金を納めるのも行政サービスを受けるのも「岐阜県」です。つまり「岐阜」の中で多治見の価値を高め、どうアピールしていくかが、喫緊の課題なのです。また、4期16年もの間、多治見では県議会議員選挙が行われていなかったため、「市民に見えぬ政治」「身近な政治」を実現したいという思いも一方にはありました。そのためには県議として力を発揮させていただくのが私の道だと思ったわけです。

——最後に、年頭に当たって今年の抱負をお聞かせください。高木 政治家ならば、誰もが通る一項目を「されど一項目」にするためには、地道な勉強姿勢を貫いて、今しかできないことをやるのが大事だと思っています。岐阜県はいま予算編成で500億円の財源不足という事態に直面しています。つまり現状維持も難しい状況にあるわけです。そういう厳しい中ですが、多治見市民・岐阜県民の目線に立って必要なのは必要だと訴え行政を動かしていきたいと思っています。

「変化」は市民の気持ちから

——さて、話を少しさかのぼっておたずねします。選挙運動の時に「変える」ということを盛んに訴えて来られました。では、具体的に何をどう変えたいと思っておられるのでしょうか？そして途中経過として「今」をどう変えたいですか？高木 ケネディ元大統領がいったように、まず自分たちが何ができ

格差是正と道州制の可能性

——大きな課題となっている格差是正のためにはどうすべきなのでしょう？高木 三位一体改革により、国から地方に降りてくるお金が大きく減りました。税の削減目標は、地方ばかりが優先されて国の行政の見直しが遅れているのが現実です。格差是正のためには、まず地方交付税をもっと充実させるべき

です。実際、国レベルの過去の作為。不作為のツケが地方に回ってきているのが実態です。苦肉の策を弄することによって悪循環に陥っているような気がしてなりません。その典型的な例が、導入が検討されている「ゆきと納税」です。この問題については議論の余地はまだあると思います。——そういった歳出の削減も含めて、新たに提議されている「道州制」についてどうお考えですか？高木 「国のあり方」の根本を見直さなければ立ち行かない現状を考えると、道州制に向けた動きは止められないと考えます。しかし、住民であるわれわれは、何よりも情報不足により理解が進んでいないのが現実です。